

滋賀県、福井県、石川県の川下、川裾、川濯信仰の伝承

舟山直治・村上孝一・尾曲香織・竹田 聡

Key Words 大祓 (Purification)、水無月神社 ("Minazuki" shrine)、分水界 (Watersheds)、祭祀 (Rituals)、分布 (Distribution)

1 はじめに

舟山は、科学研究費助成事業「西廻り航路を介して北海道に伝播した大祓の祭祀と伝承をめぐる諸問題の民俗学的研究」(課題番号: 25370961)として、江戸時代の西廻り航路などを介した地域間交流を背景に伝承した信仰形態の変遷を明らかにするため、5ヶ年計画で調査を進めている。この研究では、特に夏越大祓の神事を行うため1717(享保2)年に祭祀した北海道江差町伏木戸の水月堂が(舟山 1992: 108, 112)、後に川裾神社として伝承されていることに着目し、夏越大祓に関わる祓戸の神などの祭神と川下、川裾、川濯神との関係を明らかにするため、それぞれの祭祀状況の比較調査をしてきた。

北海道内の調査は、2013年度から瀬織津姫命や速開津姫命といった大祓に関わる祓戸の神を祭祀する神社や、川下、川裾、川濯神を祭祀する神社を対象に、神像、神徳、祭日、由来などの祭祀形態を調査した。その結果、北海道南西部では旧暦6月晦日の大祓神事から分離して、冬期に地域の女性達が川下、川裾、川濯祭として祀る形態が、特徴となっていることを示した(舟山 2015: 7-20)。あわせて2013年度からは、5ヶ年計画で積丹郡積丹町余別を中心に、1月16日の川下祭を継続して調査し、3班からなる当番ごとの祭祀状況を岡進氏とともに映像として記録してきた。2016年度からは、余別に加えて来岸、桎泊、神岬地区の祭祀についても舟山と尾曲が分担して調査を行った。

一方、本研究では、北海道で川下、川裾、川濯神の祭祀へと変化した大祓の伝承経路の解明に向けて、先行研究から川下、川裾、川濯神を祭祀している兵庫県、岡山県、鳥取県、京都府、滋賀県、福井県、石川県の7府県を選定して調査を進めている。調査にあたっては、神社誌などから祓戸の神を祭祀する神社も対象に加えて、そ

れぞれの祭祀状況の記録化を進めている。2015年度には、兵庫県の加古川水系と兵庫県東部に接する京都府の由良川水系における祭祀を比較して、分水界を経た祭祀状況の特徴を示した(舟山・村上 2016: 73-86)。2016年度には、兵庫県西部と接する鳥取県、岡山県の河川流域の伝承についても調査し、3県の県境の祭祀状況を報告したところである(舟山・村上・尾曲 2017: 111-120)。

本稿は、北海道への伝承経路を検討するための基礎データを集積するため、2017年度に実施した滋賀県、福井県、石川県調査の報告である。調査の内容は、これまでの岡山県、鳥取県、兵庫県、京都府調査と同様に、3県の大祓に関連する祭神と川下、川裾、川濯神を祀る寺社の祭祀状況を示すものである。あわせて、本稿では3県の河川流域ごとに祭祀形態を整理し、それぞれの祭祀の特徴を明示したいと考える。

本年度に実施した3県の調査は、2017年7月28日から31日まで、竹田が滋賀県の高島市と長浜市を調査した。石川県は、2017年8月30日から9月1日まで舟山が、金沢市、白山市、加賀市を調査した。福井県は、2017年12月1日から5日まで舟山と村上が、高浜町、おおい町、小浜市、美浜町、敦賀市、越前市、福井市、永平寺町、大野市、勝山市、坂井市、あわら市を調査した。

2 3県下における川下、川裾、川濯神の祭祀

(1) 先行研究にみる川下、川裾、川濯神

川下、川裾、川濯神の祭祀について、まず『総合日本民俗語彙』には(民俗学研究所編 1955: 433)、「カワソマツリ」が現在の高島市マキノ町知内と越前市高瀬のほか、「カワソ大明神」が金沢市にあるとしている。

次に、「民衆生活ノート」として『季刊 人類学』に掲

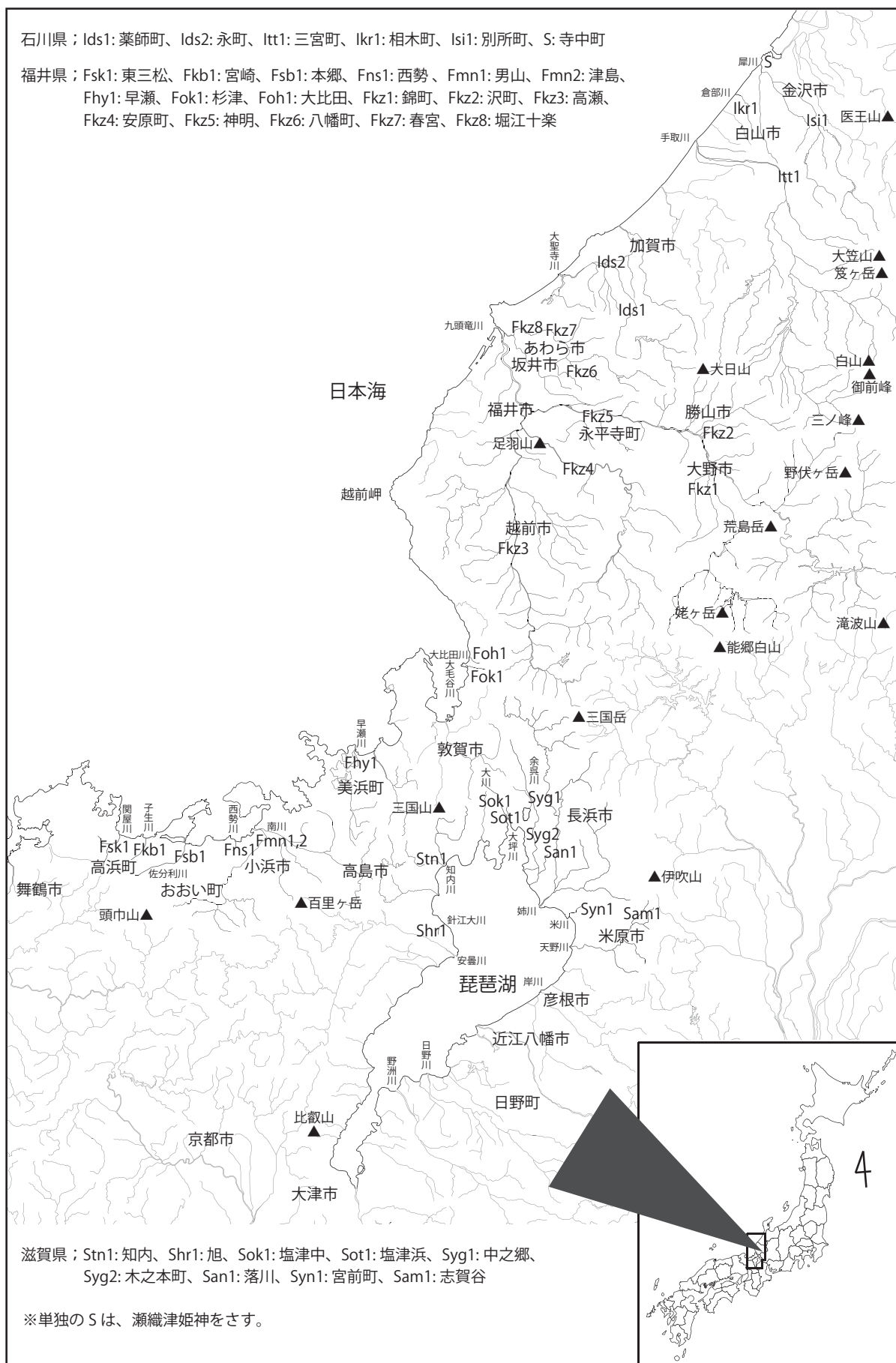


図1 滋賀県、福井県、石川県の河川にみられる川下、川裾、川濯神の所在地の概略図（国土地理院電子国土webをもとに作成）

載された「川裾祭」(1971)と(篠田 1979: 193-201)、「川裾祭追加」(1972)によれば(篠田 1979: 202)、滋賀県には高島市マキノ町知内の川裾明神と長浜市余呉町中之郷の河濯権現の2カ所、福井県には越前市高瀬の河濯権現、大野市錦町と勝山市沢町に河濯大権現、坂井市丸岡町、永平寺町松岡神明、「足羽山の向こう」(越前市)の川裾祭4カ所、石川県には、白山市三宮町の河濯権現と加賀市山中温泉の川裾祭2カ所としている。

また、「カワスソ祭考」においては(西岡 1977: 333-335、345-346)、滋賀県には高島市のマキノ町知内と新旭町旭山形に川裾、長浜市の西浅井町塩津中に川濯、同市余呉町中之郷、木之本町、高月町に河濯、米原市山東町志賀谷に河濯の7カ所、福井県には越前市高瀬、勝山市沢町、大野市錦町、坂井市丸岡町に河濯の4カ所、石川県には、白山市三宮町と加賀市山中温泉に河濯の2カ所がある。

さらに、福井県については(舟山1992: 101-118)、大飯郡の高浜町宮崎とおおい町本郷、小浜市津島、美方郡美浜町早瀬と、計4カ所の水無月(かわそ)祭を報告している。

このように滋賀県には7カ所、福井県には10カ所、石川県には2カ所に、カワシモ、カワスソ、カワソなどと呼称される祭祀が確認されている。次に、これらの祭祀に加えて、各県の神社誌などから大祓や瀬織津姫神など祓戸の神を祭祀している神社についても抽出し、河川ごとに振り分ける。

(2) 滋賀県における祭祀と関連河川

滋賀県の7カ所の祭祀は、湖西の知内川(高島市知内、河川略称Stn)と針江大川⁽¹⁾(高島市旭、河川略称Shr)の2河川流域に2カ所ある。湖北から湖東には、大川(長浜市塩津中、河川略称Sok)、が余呉川(長浜市中之郷、長浜市木之本町、河川略称Syg)、姉川(長浜市高月町落川、河川略称San)、天野川(米原市志賀谷、河川略称Sam)の4河川流域に5カ所ある。

このほか瀬織津姫神を祭祀する神社は、川尻神社(カワソと呼称)が湖北の大坪川(長浜市塩津浜、河川略称Sot)沿いにある(塩津歴史研究会 2015: 37)。また、湖東の米川(長浜市宮前、河川略称Syn)流域には川濯神社がみられる(滋賀県神社誌編纂委員会編 1987: 88-89)。

滋賀県内においてカワスソ、カワソソ、カワソと呼称する祭神は、表1と図1に示したように、知内川に1カ所、針江大川に1カ所、大川に1カ所、大坪川に1カ所、余呉川に2カ所、姉川に1カ所、米川に1カ所、天野川に1カ所と、8河川流域に計9カ所ある。これらの祭神は琵琶湖の北側に祭祀されている。

(3) 福井県における祭祀と関連河川

福井県の10カ所の祭祀は、若狭地方の子生川(高浜町宮崎、河川略称Fkb)、佐分利川(高浜町本郷、河川略称Fsb)、南川(小浜市小浜津島、河川略称Fmn)、早瀬川(美浜町早瀬、河川略称Fhy)と4河川流域に4カ所、越前地方の九頭竜川(大野市錦町、勝山市沢町、越前市高瀬、福井市安原町、永平寺町松岡神明、坂井市丸岡町八幡町、河川略称Fkz)流域が6カ所となる。

このほか瀬織津姫神を祭祀する神社は(福井県神社庁編 1994: 93-803)、関屋川(高浜町東三松、河川略称Fsk)、南川関連(小浜市小浜男山、河川略称Fmn)、大毛谷川(敦賀市杉津、河川略称Fok)、九頭竜川(あわら市堀江十楽、春宮、河川略称Fkz)と、4河川流域に5カ所となっている。また、妙厳寺によると、川裾祭が西勢川(小浜市西勢、河川略称Fns)河口で行われている。さらに、敦賀市の森正雄氏によると、河濯神社が大比田川(敦賀市大比田、河川略称Foh)付近にあるという。

福井県でカワスソ、カワソソ、カワソという祭神は、表2と図1のとおり、関屋川に1カ所、子生川に1カ所、佐分利川に1カ所、西勢川に1カ所、南川に2カ所、早瀬川に1カ所、大毛谷川に1カ所、大比田川に1カ所、九頭竜川に8カ所と、9河川流域に計17カ所ある。

(4) 石川県における祭祀と関連河川

石川県の2カ所は、河濯大権現堂が手取川(白山市三宮町、河川略称Itt)、河濯明神祭が大聖寺川(加賀市山中温泉町、河川略称Ids)の2河川流域で祀られている。

また、瀬織津姫神の祭祀は(風琳堂編 2008: 11)、犀川(金沢市別所町、同市寺中町、河川略称Isi)流域にみられる。さらに、石川県神社誌によると(石川県神社庁編 1976: 19-454)、川濯神社が大聖寺川(加賀市大聖寺永町、河川略称Ids)、川裾神が倉部川(白山市相木町、河川略称Ikr)と2河川流域で確認できる。

石川県でカワスソ、カワソソ、カワソと呼称されるのは、表3と図1のとおり大聖寺川流域に2件、手取川流域に1件、倉部川流域に1件、犀川流域に1件と、4河川流域に計5カ所となっている。

3 滋賀県下の祭祀状況

(1) 知内川 (Stn)

川裾宮唐崎神社(高島市マキノ町知内、図1-Stn1、表1-1、写真1)は、社伝によると延喜式内社大川神社で、7世紀中頃にはすでに鎮座していたという。そして、川裾宮とあるように「カワスソさん」とも呼称される。祭神は、瀬織津比咩神、速開津比咩神、速佐須良比咩神と

表1 滋賀県の川下、川裾、川濯神

No.	図1番号	名称	祭神	祭日	所在	包括社など
1	図1-Stn1	川裾宮唐崎神社	瀬織津比咩神・速開津比咩神・速佐須良比咩神	7月末頃	高島市マキノ町知内	—
2	図1-Shr1	唐崎神社(川裾さん)	瀬織津姫神	7月末	高島市新旭町旭	西宮大神社相殿
3	図1-Sok1	川濯(かわそ)神社	底筒男神	—	長浜市西浅井町塩津中	香取神社境内社
4	図1-Sot1	川尻(かわそ)神社	瀬織津姫神	7月末頃	長浜市西浅井町塩津浜	塩津神社境内外摂社
5	図1-Syg1	河濯堂	息長帯姫命、(観音さん)	7月31日	長浜市余呉町中之郷	
6	図1-Syg2	河濯大権現	息長帯姫命、(河濯)	7月末	長浜市木之本町	轡の森
7	図1-San1	河濯大権現	河濯	7月末	長浜市高月町落川	
8	図1-Syn1	川濯神社	瀬織津姫神	6月30日	長浜市宮前町	長濱八幡宮境内社金刀比羅宮合祀
9	図1-Sam1	河濯神社	河濯明神	7月末	米原市山東町志賀谷	光明院

祓戸の神の3柱である。神紋が、日、月、星の三光紋であることから三光明神とも称される。この地域には、知内川(旧大川)、生来川、百瀬川の3本の川と、殿田川とミソギ川の2本の小川が流れていたという。神徳は、祓い清め、夫婦和合、安産、縁結、病氣平癒、健康、健全発育、厄祓、家内安全、家業繁栄、心願成就などで、特に下の病に霊験があるとされる。祭日は、旧暦6月晦日の神事が「川すそまつり」と称して7月28日、29日に行われてきた。現在は、7月第4日曜日となっている。

川裾祭については、篠田が「川裾祭」(1971)の中で、次のように詳細に記している(篠田 1979: 198-199)。

川裾祭は七月一八日～一九日で、なかなかにぎあう。お祭は朝の一〇時からだが、直会はやはり夜半に行なう。掛鯪と掛鰯(ハス)をささげるが、昔は必ずハスのすしを作った。もとより馴れずしで、二〇日頃に塩切りし、二〇日ほどつけこむ。蠅がつきやすいので夜半蚊帳の中で漬けたのだという。その他、供物には神酒・茄子・瓜・ぜんまい・わかめなどの他、珍しいものとして「花びら餅」があるのも古風だ。

天気が好ければ琵琶湖北岸の尾上や南浜(長浜市)などの漁夫が参り、瓜を供えた。下の病の願かけで瓜を断つ人もある、などいうから、祇園さんの匂いもする。朽木の奥の雲洞谷から参る老婆もあった。

川裾祭は7月の夜祭りで、鰯の供物、鰯の鮓、花びら餅など祭の特徴を示した上で、下の病に対する願かけをしたという琵琶湖北岸からの漁夫についても記している。さらに、唐崎神社(川裾宮)の神徳については、「カワスソ祭考」で(西岡 1977: 333-334)、次のように記している。

川の裾で祀るから川裾様だというのは滋賀県高島郡牧野町知内の川裾さんである。ここは正式には唐崎

神社と称し、境内も広いりっぱな社であるが、土地の人の間では唐崎神社と言うより「川スソさん」と言った方が通じ易い。この神社は知内川が琵琶湖にそそぐ川口に鎮座している。故に川裾さんと称するということであるが、川に浸ったり、川を祀ったという伝承はない。しかしこのカワスソさんは滋賀県下では最も有名で、おそらく高島郡全域からお参りの人が来るだろうとのことである。

このように、川すそ祭りは川に浸ったり、川を祀ったという伝承はないとしているが、参拝者が旧マキノ町に限らず、周辺の町村からの参拝客があったとしている。

境内入口には、安政年間に東湖千人講が奉納した常夜灯(写真2)と西湖千人講が奉納した常夜灯のほか、敦賀川裾講が奉納した常夜灯があり、広範囲で信仰されていたことが理解できる。

(2) 針江大川(Shr)

川裾さんは(高島市新旭町旭、図1-Shr1、表1-2)、西宮神社と相殿となっている唐崎神社の別称である(西岡 1977: 334)。同資料によれば、祭神は瀬織津姫神、祭日が7月末となっている。祭祀については、「唐崎神社をカワスソさんと称している所がある。同じく高島郡新旭町の山形部落の氏神社がそれである。ここは湖からも遠く、川にも全く関係ないと言う。湖西では今の所この二カ所だけである」とあり(西岡 1977: 334)、ここでも川浸りや川を祀ったという伝承事例はみられないが「カワスソ」として祭祀されている。

(3) 大川(Sok)

川濯神社は(長浜市西浅井町塩津中、図1-Sok1、表1-3)、香取神社の末社である(西岡 1977: 334)。同資料によれば、祭神は底筒男神、夏越大祓に関係する祭日はない。

(4) 大坪川 (Sot)

川尻神社は（長浜市西浅井町塩津浜、図1-Sot1、表1-4、写真3）、塩津神社境外社で「かわそ」神社と呼称する。祭日は7月29日であったが、現在、7月29日に近い土曜日となった（写真4）。川尻神社の祭神は瀬織津姫神で、和気仲世（784-852）が鎮祭したとされている（塩津浜歴史研究会編 2015：37）。神徳は、安産と婦人病に加えて、水難から子供を守るとされており、母親の参拝者も多い。かつては女性も参加し、婦人の人の祭りともいう。川尻神社は、河尻神社とも標記される。

(5) 余呉川 (Syg)

川濯神社は（長浜市余呉町中之郷、図1-Syg1、表1-5）、鉛練比古神社北側の余呉川沿いの小祠に祀られている。名称は「川裾祭」（1971）に「河濯明神」とある（篠田 1979：199）。祭神は、息長帯姫である（西岡 1977：334）。余呉町の夏祭りを紹介したポスターによると（写真5）、祭日はかわそサマーフェスティバルとして7月31日となっている。

また、このポスターには、「今から200年ほど前、この地で病に苦しむ女性を救ったことが始まりで、女性の神様をお祀りしています。かつては近郷より多くの女性が参拝に訪れ、現在は多くの模擬店が並びます」と神社の縁起についても記されている。

祭祀については、「カワスソ祭考」に（西岡 1977：334）、「同郡余呉町中之郷、同郡木ノ本町では河濯権現と称する独立の祠が建っている。ここで注目すべきことは、どちらも川濯の神は息長帯姫、神功皇后であるとしていることと、昔、山の方からこの神を迎えたといい、昔からその場所にあったのではないと考えられていることである」と、木之本町と中之郷町の河濯神の祭神と縁起は共通していることが理解できる。祭神は息長帯姫（神功皇后）で、山の方から勧請した神であるとして伝承されている。

河濯堂は（長浜市木之本町、図1-Syg2、表1-6）、川濯大権現として（西岡 1977：334）、木之本駅近くの弘法大師堂付近にある。祭神は息長帯姫命で、祭日が7月末となっている。縁起は、中之郷町の河濯神と同様に山の方から祭神を勧請したとされている。

(6) 姉川 (San)

河濯堂は（長浜市高月町落川、図1-San1、表1-7）、高月駅東口前に河濯大権現として祀られている。近隣には、日吉神社が鎮座している。祭神は不明で、祭日は7月末となっている（西岡 1977：345）。

(7) 米川 (Syn)

河濯（かわそぎ）神社は（長浜市宮前町、図1-Syn1、表1-8、写真6）、長濱八幡宮境内摂社金刀比羅宮に合祀されている（滋賀県坂田郡教育会 1971：57）。祭神は瀬織津姫神で、身心浄化の神、婦人病平癒の神として祀られている。河濯神社の祭日はなく、金刀比羅宮とともに6月30日の大祓の中に含まれている。八幡宮によると、茅輪は祭礼後にして御札を湖に流している。

(8) 天野川 (Sam)

河濯神社（米原市山東町加勢野、図1-Sam1、表1-9）は、光明院に祀られている。祭神は河濯明神、祭日は7月末となっている（西岡 1977：334）。縁起について、「カワスソ祭考」では『近江国坂田郡志』を引用して（西岡 1977：334）、「ここでも、河濯明神は伊吹山から勧請したということになっている」と指摘している。この由来について、『改訂 近江国坂田郡志』には（滋賀県坂田郡教育会 1971：325-326）、次の記載がある。

東黒田村大字志賀谷字松ヶ鼻に鎮座す。元禄年中光明院第二十一世法師盛秀阿闍梨、伊吹山山窟に祭る河濯明神へ参籠せし時、霊夢を感得して是れを当院に勧請し、以て鎮守とす。愛染明王を本地に崇め、河濯明神と称し、古来霊薬を施して婦女の病妻を救いし為諸人の婦依渴仰するもの多く、今に遠近より来るもの多し。祭礼毎年七月三十日に行う。

光明院境内には、猶、清瀧権現社、稲荷大明神あり。清瀧権現社は元文元年九月の勧請なりと言う。

とあるように、河濯神社は、伊吹山山窟に祭る河濯明神を元禄年中（1688-1704）に勧請したことに始まるとしている。このように河濯神社の由来は、祭神を山から勧請したという中之郷町と木之本町の由来と同様といえる。祭神の河濯明神は、本地仏が愛染明王とされ、女性の病を癒やす霊験があるという。

4 福井県下の祭祀状況

(1) 関屋川 (Fsk)

水無月宮は（大飯郡高浜町東三松、図1-Fsk1、表2-1、写真7）、日枝神社に合祀されている（福井県神社庁編 1994：792）。祭日は7月30日で、「かわそさん」の祭りともいう。祭場は、関屋川河口（写真8）に設ける。

(2) 子生川 (Fkb)

水無月神社は（大飯郡高浜町宮崎、図1-Fkb1、表2-2、写真9）、佐伎治神社境内社の稲荷神社相殿となっ

表2 福井県の川下、川裾、川濯神

No.	図1番号	名称	祭神	祭日	所在	包括社など
1	図1-Fsk1	水無月宮	かわそ	7月30日	大飯郡高浜町東三松	日枝神社
2	図1-Fkb1	水無月神社	かわそ	7月31日	大飯郡高浜町宮崎	佐伎治神社
3	図1-Fsb1	水無月神社神輿	かわそ	7月27日	大飯郡おおい町本郷	日枝神社
4	図1-Fns1	川裾祭	大三光天子	7月28日	小浜市西勢	妙厳寺
5	図1-Fmn1	六月祓神社	神功皇后、住吉三神	7月28日	小浜市小浜男山	八幡神社
6	図1-Fmn2	六月祓神社	住吉三神	7月28日	小浜市小浜津島	－
7	図1-Fhy1	水月宮	住吉三神、瑞津島姫命	7月28～30日	三方郡美浜町早瀬	日吉神社
8	図1-Fok1	河濯神社	かわそ	7月28日	敦賀市杉津	日吉神社
9	図1-Foh1	河濯神社	かわそ	7月30日	敦賀市大比田	－
10	図1-Fkz1	河濯大権現	河濯大権現	7月末	大野市錦町	願成寺
11	図1-Fkz2	河濯大権現	河濯大権現	7月末	勝山市沢町	開善寺 無住
12	図1-Fkz3	河濯山芳春寺	河濯四光尊天	7月31日	越前市高瀬	－
13	図1-Fkz4	河濯堂	河濯大権現	7月30,31日	福井市安原町	金剛山地蔵院
14	図1-Fkz5	河濯神社	瀬織津姫命	7月31日	吉田郡永平寺町松岡神明	明神社
15	図1-Fkz6	河濯神社	少名彦命、応神天皇	7月31日	坂井市丸岡町八幡町	－
16	図1-Fkz7	河濯神社	「かわっさん」	7月31日	あわら市春宮	－
17	図1-Fkz8	河濯神社			あわら市堀江十楽	神明社

ている。祭神は「かわそさん」と呼称されている。祭日は7月31日で、祭場を子生川河口に設ける。かわそ祭りは、赤尾町区の氏子が行っている（高浜町教育委員会編 1995：68）。

(3) 佐分利川 (Fsb)

水無月神社は（大飯郡おおい町本郷、図1-Fsb1、表2-3）、日枝神社に合祀されている（福井県神社庁編 1994：803）。祭神は「かわそさん」と呼称されている。本殿に向かって右殿に水無月神社神輿（写真10）が祀られている。祭日は7月27日で、祭場を佐分利川河口に設ける。

(4) 西勢川 (Fns)

川裾祭は（小浜市西勢、図1-Fns1、表2-4）、妙厳寺で行われている。妙厳寺によると、祭神は大三光天子（日天、月天、明星）で、祭日が7月28日である。祭礼では、西勢川河口に設けた祭壇まで神輿渡御（写真11）をする。

(5) 南川 (Fmn)

六月祓神社は（小浜市小浜男山、図1-Fmn1、表2-5、写真12）、八幡神社の境内摂社である（福井県神社庁編 1994：323）。祭神は、河濯大神で、表筒男之命、中筒男之命、底筒男之命、神功皇后の4柱ともいう。7月の祭日には、神体を津島の六月祓神社へ遷して祭祀する。

六月祓神社は（小浜市小浜津島、図1-Fmn2、表2-6、

写真13）、津島と多賀地区の氏子が祀っている。祭神は、表筒男之命、中筒男之命、底筒男之命の3柱で、祭日が7月28日である（舟山 1992：112）。社伝によると、本社が松永谷上野で、1609（慶長9）年に古来から禊祓の地であった南川河口の現在地に社殿を遷した。近郷、近在からは「かわそさん」、あるいは「かわっさん」と呼称されている。安産、商売繁盛、海路陸路の交通安全に神徳がある。7月の祭日には津島の祭神に、八幡神社摂社の六月祓神社の住吉三神と神功皇后の4柱を遷すことで、大坂住吉大社の祭神が揃うという。

(6) 早瀬川 (Fhy)

水月宮は（三方郡美浜町早瀬、図1-Fhy1、表2-7、写真14）、日吉神社に合祀されている（舟山 1992：101-118）。祭神は、上筒男命、中筒男命、底筒男命、瑞津島姫命の4柱で、祭日は7月28日から30日まで行われる。祭日には、水無月広場に仮殿を建て、水月宮の祭神を海上渡御で遷して祭祀を行う。この祭は、水無月祭と書いて、「かわそまつり」と呼称される。

(7) 大毛谷川 (Fok)

河濯神社は（敦賀市杉津、図1-Fok1、表2-8）、日吉神社に合祀されている（福井県神社庁編 1994：255）。祭神は不詳、祭日は7月28日。祭場は、杉津町内を流れる生活用水路の河口で（写真15）、壮年会が中心となって祭祀するという。この祭神は、「かわそ」と呼称されている。

(8) 大比田川 (Foh)

河濯神社は（敦賀市大比田、図1-Foh1、表2-9、写真16）、大比田の個人宅が祀っているものである。祭神は不詳、祭日は7月30日である。男女関係なく下の病に霊験があるとされ、脱腸なども祈願して快癒したという事例もあるという。

(9) 九頭竜川 (Fkz)

河濯大権現は（大野市錦町、図1-Fkz1、表2-10、写真17）、願成寺で祀られている。願成寺は、九頭竜川水系の真名川流域にあり、本尊は大日如来である。河濯大権現の祭日は7月末である。願成寺について、「川裾祭追加」（1972）によれば（篠田 1979：202）、「大野願成寺 この尼寺のことは先にもちょっと書いていおいたが、本尊は大日如来、天照皇大神の七番目妹が下の病で苦しんだので、七難即滅・七福即生の願をたて、この病の平癒をして下さる。平生は空っぽみただが、祭の日だけは参詣人で雑踏する」とあるように、下の病に霊験があるとしている。

河濯大権現は（勝山市沢町、図1-Fkz2、表2-11、写真18）、開善寺で祀られている。開善寺は九頭竜川水系の滝波川流域にある。「川裾祭」（1971）によれば（篠田 1979：199-200）、「同じく越前大野の河濯大権現は開善寺にある。藩主小笠原侯の菩提寺で、楼門もあるが、二万三千石だけあってたいした寺ではない。が、今までの河濯さん中いちばん格式は高い。臨済宗で、武生と同じく大徳寺に属する」と記している。また、「川裾祭追加」（1972）でも（篠田 1979：202）、「遊女が多く参った」としている。

河濯山芳春寺は（越前市高瀬、図1-Fkz3、表2-12、写真19）、九頭竜川支流の日野川流域にみられる。祭神は、河濯四光尊天で、祭日は7月31日である。この祭りは女性の信心が篤いという。

祭神は、「川裾祭」（1971）では（篠田 1979：199）、「寺伝によれば、元来は底・中・表筒男命（すなわち住吉三神）と瀬尾律姫命（但馬川下神社祭神）を祀っていたが、後に三神にそれぞれ阿弥陀・釈迦・大日如来を、瀬尾律姫命に弁才天女（杉原谷轟で川裾明神に合祀されている）を本地仏として仏寺をつくり、神仏分離に際し寺の方が残ったという」と、廃仏毀釈以前の祭神は、底表筒男命、中表筒男命、表筒男命、瀬尾律姫神の4柱であった。また、「カワスソ祭考」では（西岡 1977：335）、縁起、祭神と神徳について次のように記している。

住吉三神から説き起こしているが、やはりここでも神功皇后の名が見え、皇后が河濯大権現を創祀されたことになっている。

ただし、一方土地の人は、「昔観音様が海岸へ流れついたが、その下半身は水で腐っていた。その観音様のお告げに、これを祀れば以後女の下のはすべて治すというので、ここに祀った」と言い伝えを信じている。

実際、この観音堂にはたくさんの、女性を描いた絵馬が奉納してある。中には犬を連れている絵柄もある。これは、安産祈願であろうか。

祭神は、住吉三神と神功皇后の4柱としている。また、下体がない観音像の由来から、女性の神、安産祈願といった神徳と結びつけている。

河濯堂は（福井市安原町、図1-Fkz4、表2-13、写真20）、金剛山地蔵院境内の小祠である。祭神は河濯大権現で、この小祠には、戸隠大権現と秋葉大権現が祀られている。河濯大権現の祭日は7月30日と31日で、河濯（かわそ）まつりとして行われる。境内の近くには、九頭竜川支流の足羽川に流入する堂田川が流れている。この小祠は、福井市内の足羽山から東へ10kmの位置にあり、「川裾祭追加」（1972）の中で（篠田 1979：202）、「足羽山の向こう」と紹介されている川裾祭とも考えられる。

河濯神社は（吉田郡永平寺町松岡神明、図1-Fkz5、表2-14、写真21）、明神社の境内社である。祭神は瀬織津姫命で、祭日が7月31日となっている。この小祠は、JR松岡神明駅の東にあり、「川裾祭追加」（1972）で（篠田 1979：202）、「駅から行って左手」と紹介されている川裾祭と位置的には符合する。社伝によると、松岡藩松平昌勝公が着封の折に城下の繁栄を祈り奉斎されたといい、金箔塗御神鏡（1721）や葵紋入りの三宝が奉納されていることから、18世紀前半に祀られたと考えられる。

河濯神社は（坂井市丸岡町八幡町、図1-Fkz6、表2-15、写真22）、八幡町地区が祀っている無格社。祭神は少名彦命と応神天皇の2柱で、祭日が7月31日である。九頭竜川水系の竹田川流域にあり、「川裾祭追加」（1972）では（篠田 1979：202）、「お城のそばにあり、芸者衆が参る」と、花街から信仰されていると記している。

芳春寺の縁起は、河濯の神は祓戸の神ということで

河濯神社は（あわら市春宮、図1-Fkz7、表2-16、写

表3 石川県の川下、川裾、川濯神

No.	図1番号	名称	祭神	祭日	所在	包括社など
1	図版1-Ids1	河濯明神祭	河濯明神	7月31日	加賀市山中温泉薬師町	医王寺
2	図版1-Ids2	河濯（かわそ）神社		7月31日	加賀市大聖寺永町	大原神社
3	図版1-Itt1	河濯尊大権現堂	河濯尊大権現	8月17日	白山市三宮町	白山比咩神社境外社
4	図版1-Ikr1	川濯（かわすすぎ）明神	河濯大権現	8月17日	白山市相木町	白山姫神社
5	図版1-Isi1	瀬織津姫社	大禍津日神、川濯御神	4月7日	金沢市別所町	祭日に「川濯御神」の幟建。
6	図版1-S	夏季大祭社伝地	瀬織津姫神	—	金沢市寺中町	大野湊神社

真23)、総社金津神社参道入口前お小祠である。祭神は不詳、祭日は7月31日である。この河濯神は「かわっさん」と呼称される。九頭竜川支流の竹田川の北側に鎮座している。

河濯神社は（あわら市堀江十楽、図1-Fkz8、表2-17、写真24）、神明社の境内社である。祭神は不詳、単独の祭日はなく明神祭日に合わせて祭祀される。かつては、女性の参拝がみられたという。九頭竜川支流の竹田川の北側に並行した用水路端に鎮座している。

5 石川県下の祭祀状況

(1) 大聖寺川 (Ids)

河濯明神祭は（加賀市山中温泉薬師町、図版1-Ids1、表3-1）、医王寺で行われる。祭神は河濯明神の石像（写真25）で、祭日が7月31日である。この祭祀について、「川裾祭追加」（1972）では「加賀山中薬師のそば」と（篠田 1979：202）、あるいは「カワスソ祭考」でも「加賀市山中町」とあるだけで（西岡、1977：346）、いずれも所在のみの記載になっている。祭日には、境内にある川裾明神の祭場（写真26）に祭壇を設けて祭祀を行う。かつては近在からも参詣があり、特に女性の信心が多かったという。

河濯神社は（加賀市大聖寺永町、図版1-Ids2、表3-2）、1910（明治43）年に大原神社（写真27）へ合祀された（石川県神社庁編 1976：97）。社伝によると、河濯神社の縁起は1297（永仁5）年という。

(2) 手取川 (Itt)

河濯尊大権現は（白山市三宮町、図版1-Itt1、写真28）、白山比咩神社の裏参道沿いに祀られている。祭神は河濯尊大権現（写真29）で、祭日が8月17日である。管理は三宮町内という。この河濯尊大権現堂について「川裾祭」（1971）では（篠田 1979：201）、「簡単な縁起が板に書いて掲げてある。さすがは北陸だけあって本

尊を泰澄上人作としているのはよいとして、その背中に元文戊午（三年、一七三八）云々の銘があるというのは、この信仰の古さを思わせて面白い」と記載がある。現存の「河濯尊大権現堂の由来」によると、伝説で泰澄大師御自作とあるものの、度重なる水害により「奉造立河濯尊大権現 石浦町菅波屋三島兵衛 五月吉日祥日 元文戊午歳」と記しており、1738（元文3）年に石像を改めて造立し、再祀していることが理解できる。

(3) 倉部川 (Ikr)

川濯明神は（白山市相木町、図版1-Ikb1）、白山姫神社（写真30）に白山比咩神とともに祀られている（石川神社庁編 1976：209）。祭神は河濯大権現で、祭日が8月17日である。社伝によると白山姫神社は、もとは白山社と称し、川濯（かわすすぎ）明神とも呼称されたという。

(4) 犀川 (Isi)

瀬織津姫社は（金沢市別所町、図版1-Isi1、表3-5、写真31）、社伝によると明治初年に村社に列せられている。祭神は大禍津日神で、祭日が4月7日である（石川県神社庁編 1976：68）。祭日には、「川濯御神」の幟旗を掲げるという。

瀬織津姫神は、（金沢市寺中町、図版1-Isi2、表3-6）大野湊神社本殿の神明社相殿となっている（石川県神社庁編 1976：31-32）。瀬織津姫神単独の祭日はみられないが、大野湊神社では6月30日には夏越大祓を、8月第1日曜日を含む金土日には夏季大祭を行っている。夏季大祭では、犀川河口の仮殿（写真32）で祭祀している。しかし、別所町のように「川濯御神」の幟旗など河濯神との関連はみられない。

6 3県の祭祀の特徴

滋賀県、福井県、石川県で調査した大祓に関わる祓戸の神、川下、川裾、川濯神について、それぞれの所在地

を河川流域ごとに振り分けて祭祀形態を整理した結果、3県の祭祀には次の特徴がみられる。

滋賀県では、知内川流域に1件、針江大川流域に1件、大川流域に1件、大坪川流域に1件、余呉川流域に2件、姉川流域に1件、米川流域に1件、天野川流域に1件で、県北の8河川に河濯神が祀られている。余呉川以外は、1河川に1ヵ所の河濯神が河口付近に祀られている。

福井県では、関屋川に1件、子生川に1件、佐分利川に1件、西勢川に1件、南川に2件、早瀬川に1件、大毛谷川に1件、大比田川に1件、九頭竜川に8件と9河川に河濯神が祀られている。複数祀られている南川と九頭竜川を除いた7河川では、それぞれ1ヵ所の河濯神が河口域で祭祀されている。

石川県では、大聖寺川に2件、手取川に1件、倉部川に1件、犀川に1件と、4河川に河濯神が祀られている。ここでは大聖寺川を除き、1河川に1ヵ所の河濯神が祭祀されている。犀川河口に鎮座する大野湊神社の瀬織津姫は、川下、川裾、川濯神との関係は認められなかった。

このように1河川に1ヵ所を祀る形態は、北海道の祭祀と同様であり、北海道への祭祀の伝承を考える上で重要な祭祀形態といえる。とりわけ福井県西部で夏越大祓として行われる水無月祭は、カワスソ、カワソ祭りとも呼称されており、水月堂から川下、川裾、川濯神社へと変化した北海道の伝承に直結する事例と考えられる。

7 おわりに

本稿では、本年度に調査した滋賀県、福井県、石川県の夏越大祓と祓戸の神、川下、川裾、川濯神を祀る神社について、神社所在地を河川流域ごとに整理し、それぞれの神像、神徳、祭礼、由来などの祭祀形態とその特徴を明らかにしてきた。これによりこれまでに実施してきた調査報告とともに、北海道への伝承経路を比較検討するための基礎データを示すことができた。

今後は、7府県の基礎データをもとに、江戸時代の西廻り航路などを介した地域間交流を背景に、北海道へ伝承した大祓の変遷過程を明らかにする必要がある。検討にあたっては、瀬戸内海側では岡山県、兵庫県、日本海側では、鳥取県、兵庫県、京都府、福井県、石川県、そして内陸部の滋賀県における河川流域の祭祀の特徴を抽出して、大祓の祭祀から川下、川裾、川濯神の祭祀へと変化した祭祀伝承の構造についても明らかにしたいと考える。

さらに、柳田国男が「石神問答」(1940)で示している川濯明神について(柳田 1990: 195-200)、陸前の「封内風土記」や阿波の「阿波志」を検証して、祭祀の伝承あるいは消失の要因について課題を整理する。

註

- (1) 高島市旭(山形)の祭場は、安曇川とも考えられるが、ここでは唐崎神社に接している河川である針江大川をあげた。

謝辞

この調査を進めるにあたり、次の方々から神社の名称と祭祀の由来についての聞き取りや資料の提供などで数多くのご教示をいただきました。記して厚く感謝申し上げます。

滋賀県では、唐崎神社(鳥居節子氏、鳥居貢氏)、塩津歴史研究会(中島守治氏、石田孝男氏)、長濱八幡宮(山根孝昭氏)。福井県では、小浜八幡神社(渡邊隆氏)、開善寺(田崎和子氏)、願成寺(古知勺雨氏)、佐佐治神社(赤坂康夫氏)、佐々木大輔氏、佐藤正典氏、日枝神社(松田悦夫氏)、芳春寺(浜崎百合子氏)、妙厳寺(遠藤建峰氏)、森正雄氏、山本紀和武氏。石川県では、医王寺(鹿野恭弘氏)、河崎正幸氏。

参考文献

- 石川県神社庁編 1976. 石川県神社誌。
塩津浜歴史研究会編 2015. 設立20周年記念誌 塩津浜かいわい。
滋賀県神社誌編纂委員会編 1987. 滋賀県神社誌。
滋賀県坂田郡教育会 1971. 改訂近江国坂田郡志. 第5巻. 名著出版社。
篠田統 1979. 風俗古今東西 民衆生活ノート. 社会思想社。
高浜町教育委員会編 1995. 高浜町の民俗文化一年中行事と祭り一。
西岡陽子 1977. カワスソ祭考. 地域と文化: 本位田重美先生定年論文集. pp. 321-346。
風琳堂編 2008. 瀬織津姫神全国祭祀社リスト. 風琳堂ホームページpdf。
福井県神社庁編 1994. 御大典記念 福井県神社誌。
舟山直治 1992. カワシモサマ信仰(2). 北海道開拓記念館調査報告 31: 101-118。
舟山直治 2015. 北海道における大祓にかかわる祭神の特徴. 開拓記念館研究年報 43: 7-20。
舟山直治・村上孝一 2016. 加古川水系と由良川水系の川下、川裾、川濯信仰の伝承. 北海道博物館研究紀要 1: 73-86。
舟山直治・村上孝一・尾曲香織 2017. 兵庫県、鳥取県、岡山県境にみる川下、川裾、川濯神の伝承. 北海道博物館研究紀要 2: 111-120。
民俗学研究所編 1955(再版1970). 改訂総合日本民俗語彙. 第一巻. 平凡社。
柳田國男 1940. 石神問答(柳田國男 1990. 柳田國男全集. 筑摩書房 15: 7-200)。

図版 I



写真1 川裾宮唐崎神社拝殿（高島市マキノ町知内、図版1-Stn1）



写真2 川裾宮唐崎神社参道前の常夜灯（湖東千人講）



写真3 川尻神社（長浜市西浅井町塩津浜、図1-Sot1）



写真4 川すそ祭り（川尻神社、図1-Sot1）

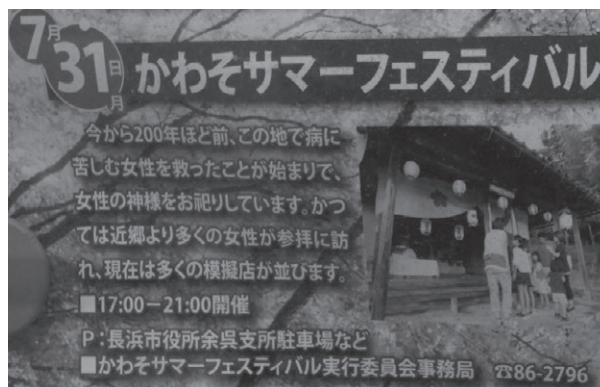


写真5 中之郷のかわそサマーフェスティバル（市民祭ポスター部分）



写真6 河濯神社（長浜市宮前町、図1-Syn1）



写真7 水無月宮（大飯郡高浜町東三松、図1-Fsk1）



写真8 水無月宮の祭場（関屋川河口）

図版 II



写真9 水無月神社（大飯郡高浜町宮崎、図1-Fkb1）



写真13 六月祓神社（小浜市小浜津島、図1-Fmn2）



写真10 水無月神社神輿（大飯郡おおい町本郷、図1-Fsb1）



写真14 水月宮（三方郡美浜町早瀬、図1-Fhy1）



写真11 川裾祭の神輿渡御（小浜市西勢、図1-Fns1、妙厳寺提供）



写真15 河濯神社の祭祀を行う浜辺（敦賀市杉津、図1-Fok1）



写真12 六月祓神社（小浜市小浜男山、図1-Fmn1）



写真16 河濯神社（敦賀市大比田、図1-Foh1）

図版Ⅲ



写真17 河渚大権現（大野市錦町、図1-Fkz1）



写真21 河渚神社（吉田郡永平寺町松岡神明、図1-Fkz5）



写真18 河渚大権現（勝山市沢町、図1-Fkz2）



写真22 河渚神社（坂井市丸岡町八幡町、図1-Fkz6）



写真19 河渚山芳春寺（越前市高瀬、図1-Fkz3）



写真23 河渚神社（あわら市春宮、図1-Fkz7）



写真20 河渚堂（福井市安原町、図1-Fkz4）



写真24 河渚神社（あわら市堀江十楽、図1-Fkz8）

図版Ⅳ



写真25 河濯明神の石像（加賀市山中温泉薬師町医王寺、図版1-lds1）



写真29 河濯尊大権現



写真26 河濯明神祭の祭場（医王寺）



写真30 白山姫神社（白山市相木町、lkr1）



写真27 大原神社（加賀市大聖寺町、図版1-lds2）



写真31 瀬織津姫社（金沢市別所町、図版1-lsi1）



写真28 河濯尊大権現堂（白山市三宮町、図版1-itt1）



写真32 夏季大祭社殿地（金沢市寺中町、図版1-lsiS）

Folklore of Belief in the River Basin of “Kawa-shimo”, “Kawa-suso” and “Kawa-so” in the Shiga Prefecture, Fukui Prefecture and Ishikawa Prefecture

Naoji FUNAYAMA, Kouichi MURAKAMI, Kaori OMAGARI, and Satoshi TAKEDA

This is the 2017 annual survey report of an “Folklore Research of Various Topics Regarding Transmission of “Oharae” (purification) Ritual Traditions to Hokkaido Through the western shipping route” (Research Project Number 25370961) under a Grants-in-Aid for Scientific Research. A distribution survey was carried out on the Haraedo god related to purification, targeting river basin areas of Kawashimo, Kawasuso, and Kawaso, in Shiga, Fukui, and Ishikawa prefectures.

In this article, the rituals of three prefectures

were organized according to the river, similar to other surveys carried out in Okayama, Tottori, and Hyogo prefectures. In the three prefectures, 31 rituals were confirmed for 21 rivers, and were then compared and considered. As a result, within the rituals in Kawashimo, Kawasuso, and Kawasusugi in the three prefectures, one god was found to be worshipped in 17 rivers excluding Yogo-river in Shiga prefecture, Minami-river and Kuzuryu-river in Fukui prefecture, and Sai-river in Ishikawa prefecture.

Naoji FUNAYAMA : Director for Curatorial Division, Hokkaido Museum
Kouichi MURAKAMI : Museum Studies Group, Research Division, Hokkaido Museum
Kaori OMAGARI : Folk Life and Industrial Group, Research Division, Hokkaido Museum
Satoshi TAKEDA : Shiriuchi Town Board of Education
